

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月27日

事業所名 児童発達支援事業所 2ndさくら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		活動に合わせた環境設定や部屋わけをするようにしている。	
	2 職員の配置数は適切である	7		利用児童の発達に合わせ、スタッフ配置を行っている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		活動ごとに部屋わけを行い、部屋の入り口には子どもの目の高さにイラストや写真を提示し何をやる空間なのか視覚的にわかりやすく提示している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		児発スタッフ全員でのミーティングを定期的に行っている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		保護者からの意向は職員全体で把握し、出来る範囲で対応を行っている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		研修への参加や事業所内研修を行っている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		児童発達支援ガイドラインに沿った内容で計画作成を行うように努めている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		支援計画をしっかりと把握したうえで課題や活動を設定したりしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		児童の発達に応じて、登校練習等就学に必要な練習を行っている。月ごとにテーマを決め、様々な発達に合わせた課題を含んだ活動プログラムを構築し、行っている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		スタッフミーティングでその日の振り返りを行い、子ども一人ひとりについて細かく情報共有を行い、次の支援につなげている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		その日の様子を活動ごとに丁寧に記録し、必要な支援につなげている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		人員配置が可能な限り、児発管1名と担当スタッフ1名が会議に参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			現在医療的ケアが必要な方の受け入れがない。 必要性が出てきたときに対応する。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			現在医療的ケアが必要な方の受け入れがないが、てんかん発作をお持ちの方に対して個別に発作時対応マニュアルを作成している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7		登録児童全員が園に所属しており、それぞれに交流がある。所属園とは送迎を利用して情報共有に努めている。 月1回のおたよりを所属している園にご家族を通じて配布している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		八代圏域の通所支援事業所の会議には参加し、参加しない職員に対しては職員会議で圏域の情報共有に努めている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		療育当日の記録をお渡しできない日は、療育記録が出来た日、LINE等でお知らせするようにしている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7		コロナ感染防止のため、今年度は茶話会を行わず、職員研修でペアレントプログラムを行っている。	来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、茶話会でペアレントプログラムを行ってきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		例年は定期的に茶話会を行っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月セカンドさくらだよりを発行し、利用児童が所属する園への配布を行い、事業所内で取り組んでいることをお知らせしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		視覚支援を意識し、わかりやすく伝える配慮をしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7		地域で開催される花の苗植えなどに参加している。	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7			

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	年に2回の消防訓練・地震避難訓練を行っている。	避難訓練の報告を2ndさくら便りで行っている。より周知をはかるため、避難訓練前日までに保護者の方にLINEで避難訓練を行う期日を知らせるようにしていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	てんかんをお持ちの方に対しては利用前と保護者の方の面談の際に対応方法の確認を行い、スタッフ間で共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		現在対象児童はいない。今後受け入れができるように事業所内で身体拘束の研修会を行っていく。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：R 3年 3月 27日

事業所名 児童発達支援事業所 わっこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	11	0	・部屋数も多いため、活動の場のスペースは確保できている。また活動内容（個別・集団）に合わせて、環境設定も随時行っている。	
	2 職員の配置数は適切である	11	0	・利用児童の特性や発達状況によってスタッフ配置を行っている。保育士10名、看護師1名勤務しており、個別での対応が可能になっている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11		・個々に合わせた構造化も工夫している。	・段差などがあり、完全なバリアフリーではないが、児童の特性に合った環境になっている。今後も利用児童に必要な環境設定は都度行っていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	11	0		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	11	0	・職員会議を開催し、業務改善に向けての検討を行っている。 ・スタッフ同士が発信し合える雰囲気作りそれぞれが努めている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	11	0	・年度末に評価表を配布し、年間を通しての評価を頂いている。	・評価表のご意見を基に、次年度以降取り組んで行くべき課題をスタッフ間で共有し、在り方を検討していく。 ・ご家族に満足頂けるよう、支援の質の向上を図っていきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	11		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	5		・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大、緊急事態宣言に伴い、事業所内研修も含め自粛していたので、次年度からは、今年度の事も踏まえ研修会の在り方を検討し、機会確保を行っていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11	0		・アセスメントに関しては、相談支援事業所からの情報を共有し、子どものニーズと保護者のニーズを見極め、支援を行うよう努めていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	0		・八代圏域地域療育センターで作成されたアセスメントシート（市の通所支援事業所に配布済み）を次年度より活用していきたい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	11	0	・児童発達支援ガイドラインに基づいた「発達支援」「家族支援」「地域支援」で示す計画作成を行っている。	・児童発達支援ガイドラインについては、ご存知ないご家族が多数である為、次年度、説明会を実施し、周知していく。また、年度途中からの契約時にも、ガイドラインについて説明を行っていく。 ・今後も児童発達支援ガイドライン、計画相談支援事業所支援計画に基づき、計画作成に努めていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	11	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	11	0	・利用時の子どもの状況に応じてプログラムの設定を行っている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	0	・楽しみながら取り組めるような活動設定を心掛けている。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	11	0	・特に小集団の活動を行う時には、活動参加に対する、個々の目標設定を行い、支援の程度も検討し取り組んでいる。	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	11	0	・2人体制の担当制を取り入れ、それぞれのスタッフで活動や目標設定、振り返りを密に行っている。児童発達支援管理責任者においては、日ごろのミーティングやモニタリング時の状況から、情報を収集しており、利用児童について把握できている。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	0		
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	11	0	・写真も添え、誰が見ても分かるように記録している。また、経過が分かるようにチェック表も作成し、活用している。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	11	0			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	0	・児童発達支援管理責任者、担当スタッフの2名体制で参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	10	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11	0	・医療的ケアが必要な子どもさんの入園に対して、保育所等訪問支援、関係機関連携サービスを活用し、事業所スタッフ、看護師とスムーズな園生活への移行支援を行っている。 ・就学前でもある事から、就学に関しては年中児より情報提供し、放課後の過ごし方も含め検討し	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	11	0		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	0		
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10	1	・就学後も1学期間は保育所等訪問支援の契約を継続して頂き、入学後の困り感にも対応できるようにしている。	・学校によっては、入学後の移行支援を希望される所も多く、今後も随時対応していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	3	・圏域の事業所スタッフ向けに行われる研修会に参加している。	・今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、研修が中止となる事が多かった。今後、ウエブ研修等、研修の在り方も変わってくると思うので、対応できるように準備していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	11		・登録している99パーセントの児童が園に就園しており、交流や活動を進めているので必要性を感じていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	7		・協議会、子ども部会においては圏域の事業所で持ち回りになっている。圏域の事業所連携会議で、内容報告が行われるので、今後は、事業所スタッフへの周知を徹底していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	11	0	・お迎えに来られた保護者に対しては、取り組んだ教材を実際に見て頂きながら目的と様子、今後の課題についてお伝えしている。また、連絡ノートでは写真やコピーを活用して利用児童の様子がわかりやすいように工夫している。	・近年送迎希望が増加しており、ご家族と会う機会が減っている。モニタリング時に現状や今後の課題等をお話するが、しっかりと共通理解が出来ているか、曖昧なケースもある。今後、できるだけ事業所に足を運んで頂き、直接お伝えする機会を増やしていく事が課題。検討していく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	9		・昨年度外部講師より「ペアレント・プログラム」についてスタッフが学んでいるので、毎年、振り返りを行っている。 ・次年度以降、「ペアレント・プログラム」について情報提供を行いながら、研修会開催に向けて準備していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	11	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	11	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	10	・就学された先輩保護者を招いた茶話会を実施し、就学後の期待や不安について意見交換し、保護者同士の繋がり場の場を設けている。	・今年度は家族療育、茶話会を中止しており、交流、連携の場を設ける事が困難だった。今後コロナ禍でも情報を発信できるよう、方法を検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	11	0	・利用児童が在籍している園にも配布し、事業所で取り組んでいる事を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	11	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	6		・事業所としての行事は行っていないが、道の歩き方や買い物学習など、社会ルールを学ぶ場、利用児童が生活し成長していく場として地域を含めた療育に取り組んでいる。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	11	0		・周知不足だった為、今後はお便りで活動内容を伝えていく。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	11	0	・訓練というよりも、普段の活動の中で聞く姿勢や瞬時に注目する事、指示の理解力を高めていけるよう、スタッフも常に意識して取り組んでいる。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	3	・アレルギーの有無、服薬については、利用開始時にアセスメントシートで確認している。	・給食は提供していないが、クッキングを行う時には、アレルギーの有無について確認している。摂食に関する療育を行う時には、家庭より持参して頂いている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	11	0		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11	0	・年1回、虐待防止についての研修会を行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0	11		・対象児童はいないが、身体拘束についての研修会を行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：R 3年 3月 27日

事業所名 児童発達支援事業所ほのか

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	・指定基準に基づき活動スペースを十分に確保している。	・今後も状況に応じてスペースを有効に使用できるよう工夫していきます。
	2 職員の配置数は適切である	10	0		・基準に基づき職員の配置を行っています。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	0	・生活と遊びの空間を分かりやすく安全に過ごせるように配慮しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	10	0	・毎日、清掃を行っています。また、子ども達に合わせた机や教材も行っていきます。	・定期的な消毒や空気清浄機等の設置を行い、感染予防にも努めていきます。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	10			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			・保護者様のアンケートの結果、意向等は改善に取り組みなど努めていきます。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		・ホームページに評価の公表を実施しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9	1		・現在は、保護者様と事業所内での評価のみとなっていますので今後の検討課題とします。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		・定期的に事業所研修を行っています。	・定期的な研修会・保護者様向けの研修会に参加し支援に反映できるようにしています。また、事業所研修も行っていきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	10		・保護者様・利用者様の意向を確認し支援計画を作成しています。保護者様より検査結果をいただき発達状況を把握しています。	・定期的なアセスメント・モニタリング・ケース会議・面談を行い、ニーズを把握し支援計画を作成し、実施しています。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10			
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10		・個別支援の中で記載をしています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	10		・個別支援計画に沿った支援を行っています。	・定期的に目標を確認しています。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	10		・スタッフミーティングでプログラムを立案し見直しも行っていきます。	・スタッフミーティングで活動の話合いを行っています。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		・小集団・集団・SSTを通して固定化しないように行っています。	・個別課題と集団の活動やまた、季節を意識した活動を取り入れることでプログラムが固定化されないよう工夫しています。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	10		・一人ひとりの発達に応じて個別・集団・社会性などに分け支援計画を作成しています。	・個人の目標は職員で周知しており、個別・集団の中での課題に向けて作成をしています。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		・活動時間の前後には、ミーティングを行い、利用者様の様子やプログラムの流れ、支援内容を確認を行っています。また、状況に応じた支援が出来るよう細目に見直し検討を行っています。	・毎日、必ずスタッフミーティングを行い、課題の確認を行っています。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10			・翌日のミーティングで振り返りを必ず行っていきます。また、業務日誌の確認も周知しています。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			全職員で周知をし、改善に繋げています。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	10		・定期的に見直し、細目に見直しを行っています。	・定期的な面談以外も状況に応じて迅速に対応しています。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		・開催される場合には適任者が参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	2	・今、現在は対象の子どもがいっぱいありません。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	2		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		・情報交換を行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	10		・情報交換を行っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10			・関係機関で行われる研修会には積極的に参加しています。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	・今年度は、事業所としての交流は、ありませんでした。	・利用者の状況やニーズを把握し機会を検討していきたいと思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	1	・機会があれば参加したいと思います。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		・利用時には、保護者様へ状況の説明を行っています。また、連絡ノートも積極的に活用しています。	・今後も日頃の療育内容を積極的にお伝えし、更に保護者様と一緒に共通認識を持ちフィードバックの時間を設けていきます。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	2		
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10		・契約時に説明を行っています。また、疑問点などありましたら、随時対応しています。	・契約時には、詳しく説明を行っています。支援内容、利用者自己負担分につきましては、改正があった場合には随時、プリント配布を行い説明を全体的に行い、更に個人的にも行っています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	10		・個人面談を通して計画の共有を行っています。	・今後も丁寧に説明を行っていきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		・モニタリングの他、随時相談を受けられる体制作りを行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	2		・保護者同士の交流の支援ができるよう事業所でも検討していきたいと思います。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	10		・相談、申し入れがあった場合には電話や面談、家庭訪問にて迅速に対応を務めています。また、苦情受付・重要事項説明書に記載し、契約時に説明しています。	・保護者様が相談しやすい雰囲気作りを行い迅速に対応していきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		・毎月のおたよりで活動内容・行事予定等の情報を提供しています。	・おたよりの内容充実にも努めています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	10		・個人情報は十分に注意をしています。	・鍵付きのキャビネットに保管をしています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10		・子ども、保護者様の対応を一人一人に合わせて行っています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	3		・今年度は感染防止のため実施が難しい状況でした。今後はこれまでのやり方も見直ししながら進めていきたいと思っています。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	10			・対応方法は、保護者様へ連絡を行っていますが詳細やマニュアルや保護者様への周知が不足している場合もあり早急に対応していきたい。

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		・法人全体の訓練と事業所内の訓練を計画的に御こなっています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	10		・ご利用前に状況把握を行い、その後も内容の確認を行っています。 ・今後も、職員一人ひとりが意識できるように確認と周知を行っています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	2	・アセスメントへの記入の他、定期的の確認を行っています。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		その都度記録し、職員で周知しています。 ・一人一人の気付きを大切に、再発防止に努めていきます。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		・事業所内研修を行っています。 ・定期的に職員の共通認識とし研修会を行っています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		・身体拘束を行った場合には記録に残すこと、また契約書に記載し保護者様には契約時に説明を行っています。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 27日

事業所名 ゆいまーる

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	0		
	2 職員の配置数は適切である	6	1	医療的ケアが必要なご利用者様には看護師を配置し安全に活動ができるようにしています。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	0		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7	0		
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5	監査を受けており業務改善につなげています。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0		
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	0		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		既存のアセスメントシートは知りたい情報が不足している部分があり改善して情報の過不足がないようにしていく
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	課題の整理表を作成し、発達支援、家族支援、地域支援の各項目ごとに課題や目標を設定し支援内容を計画しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	0		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0		
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7	0		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0		
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	支援終了後ではなく翌日の朝礼時に前日の振り返りを行い、情報共有を図っています	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0		
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	0			

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7	0		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2	主治医の指示を受けた保護者様の依頼のもと看護師により医療的ケアを行っています。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	担任の先生、相談員様や保護者様を通じて情報共有に努めています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1	担任の先生と情報交換会議をおこない、情報共有に努めています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2	コロナ禍で事業所内での支援は控えて頂きましたが、感染対策を行い職員と心理士の先生と意見交換や助言を頂くことができました。	今後はリモートでの支援を取り入れて専門的な助言や研修が継続的に受けられるようにしていきたいと思います。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	7		コロナ禍で交流を控えています。今後感染対策を行った上で交流を検討していきたいと思っています
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	3	八代の通所事業所が集まる会議に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0		
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	押し付けにならないようにゆいまるで取り組んで成功したことを中心にお伝えするよう心がけています。	今後家族支援プログラムについても研修会の参加等進めていきたいと思っています。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	7		コロナ禍で茶話会を控えています。今後感染対策を行った上で出来る範囲で茶話会の開催を検討していきたいと思っています。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	0		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	1		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		例年は文化祭などで交流がありますが、コロナ禍のため写真展の開催のみで外部からの招待を控えています。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	0	年2回の避難訓練を実施しています。緊急時の対応に関しては定期的に確認しています。	

非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7	0		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	0	医師の指示を受けた保護者様からの依頼に基づいて対応していきます。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	ヒヤリハット事例集を作成し共有するようにしています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	年に一度虐待防止に関する研修会の参加及び職員研修会を行っています。又年2回のチェックリストの実施を行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	0		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 3月 27日

事業所名 児童発達支援事業所 2ndさくら 職員数8名

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		活動に合わせた環境設定や部屋わけをしている。	
	2 職員の配置数は適切である	8		職員の加配はされている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8		段差をなくした建物の設計になっている。	送迎時、玄関が込み合うことが多いので、送迎時間を学年や活動によってわけするなど工夫をしていきたい。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8		毎日出勤職員全員でミーティングを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		保護者からの意向は職員全体で把握し、改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		研修の参加や事業所内研修を行っている。	
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8		アセスメント表をもとに職員会議を行い、支援計画の見直しをしている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	8		チームでミーティングを重ね活動計画を立てている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		ビジョントレーニング、ワーキングメモリ、協調運動などを意識した活動を個別や集団で行っている。 今後も面談や日頃のやり取りを通して利用児童や保護者のニーズを把握し、大人になり、社会に出る時に役立つスキル獲得のお手伝いをしていきたい。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8		スタッフミーティングで子どものその日の目標設定を行っている。 長期休暇中は例年は戸外活動を行っているが、今年度は事業所内で屋台を楽しんだりお店番をすることで、お金の練習や公共のマナーの練習をおこなっている	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		昼礼を行い、活動内容の確認や役割分担の確認を行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		次の利用日までに昼礼等で共有する時間を設けている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		療育記録や活動への評価を行い、支援計画に活かしている。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	8				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		児発管が会議に参加するようにしている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		2ndさくら便りを園や学校に配布し情報共有を行っている。また、必要に応じてノート交換を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			現在医療的ケアが必要な方の受け入れがないが、てんかん発作をお持ちの方に対して個別に発作時対応マニュアルを作成している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8		今年度はコロナ感染防止のため、行う予定はない。登録児童全員が学校に行っており、交流や活動を進めている。月1回のおたよりをご家庭を通して児童が所属しているクラスに配布している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8		八代圏域通所支援会議には参加しており、圏域の他の事業所との交流を行っている。協議会への参加は圏域の事業所で持ち回りでおこなっている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		保護者の方のお迎えの際、担当職員が日々の様子を伝えている。保護者の方がお迎えに来れないご家庭は、お迎えの際の伝達が難しいため、療育記録に加え、LINEでその日の様子を写真付きで送るなどしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	8		コロナ感染防止のため、今年度は茶話会を行わず、職員研修でペアレントプログラムを行っている。	来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、茶話会でペアレントプログラムを行ってきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		日々の保護者との会話や面談に応じたり、話を聞き支援に活かしている。	お迎えに来ることができないご家庭には、療育の様子をLINEで伝えていくことを徹底したい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		例年は定期的に茶話会を行っている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		ご家庭よりご指摘をいただいたことは速やかに職員全員で共有し、対策案を考え実施している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		児童が在籍する学校におたよりを配布し、事業所で取り組んでいることをお知らせしている。	
	35	個人情報に十分注意している	8			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		視覚支援を意識し、わかりやすく伝える配慮をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8			今年度はコロナ防止対策のため、むつかしかつたが、来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、機会を設けていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	年に2回の消防訓練・地震避難訓練を行っている。	避難訓練の報告を2ndさくら便りで行っている。より周知をはかるため、避難訓練前日までに保護者の方にLINEで避難訓練を行う期日を知らせるようにしていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	現在対象児童はいない。 今後の受け入れができるよう事業所内で研修を行っていく。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 3月 27日

事業所名 児童発達支援事業所 さくら 職員数9名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		・限られたスペースですので、少しでも広く活動できるよう、環境整備を心掛けています。	
	2	職員の配置数は適切である	9		・職員の加配はされています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9		・スロープ等設置しています。	・今後の利用の状況において、環境においては対応を進めていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9		・毎日出勤職員全員でミーティングを行っています。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9		・保護者からの意向は職員全体で把握し、改善に努めています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9		・研修の参加や事業所内研修を行っています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9		・アセスメント表をもとに職員会議を行い、支援計画の見直しをしています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9		・チームでミーティングを重ね活動計画を立てています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9		・面談や日頃のやり取りを通して利用児童や保護者のニーズを把握し、社会に出る為に必要と考えられるスキル獲得のお手伝いをしていきます。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9		・それぞれの状況に応じた課題設定に心掛けて進めています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9		・子どもの状況に合わせて、組み合わせを進めています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9		・屋礼を行い、活動内容の確認や役割分担の確認を行っています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		・次の利用日までに屋礼等で共有する時間を設けています。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9		・療育記録や活動への評価を行い、支援計画に活かしています。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	9		・定期的に行い、現状を確認しながら取り組んでいます。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9		・念頭に置きながらの支援に取り組んでいます。		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9		・児発管が会議に参加するようにしています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	9		・おたよりを学校に配布し情報共有を行っています。また、必要に応じて連絡を取るようになっています。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9		・移行支援会議などに出席し、情報をお伝えしています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9		・定期的にある研修会に出席しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	9		・今年度はコロナ感染防止のため行えていません。・コロナが落ち着けば、長期休みなどを利用して、交流を進めていきたいと思っています。。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9		・八代圏域通所支援会議には参加しており他の事業所との交流を行っています。 ・協議会への参加は圏域の事業所で持ち回りでおこなっています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9		・関係機関などは、必要の応じ、連絡・報告をしながら進めています。 ・日頃から直接話をする機会を短時間でも多くとれるよう心掛け、信頼関係を築き、本音を言いやすい雰囲気づくりを心掛けています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9		・来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、茶話会でペアレントプログラムを行っていききたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		・日々の保護者との会話や面談に応じたり、話を聞き支援に活かしています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9		・例年は定期的に茶話会を行っています。 ・行っていない分、プリント配布などで情報提供をしたり、可能なツール(LINEや電話を含む)での発信をしたり心掛けました。 ・今年度はコロナ感染防止対策のため、難しかったが、来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、機会を設けていきたいです。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9		・ご家庭よりお伝えいただいた事は職員全員で共有し、速やかに対応しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		・児童が在籍する学校におたよりを配布し、事業所で取り組んでいることをお知らせしています。
	35	個人情報に十分注意している	9		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		・視覚支援を意識し、わかりやすく伝える配慮をしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9		・今年度はコロナ感染防止対策のため、難しかったが、来年度以降でコロナ感染防止の見通しがたてば、機会を設けていきたいです。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	9		

非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休みを利用して避難訓練を行っています。 ・また、DVD視聴や話、紙芝居などを通して、日頃から少しずつ伝えていくよう心掛けています。 	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から保護者の方々、子ども達とのコミュニケーションをしっかりと図るようにし、気を配るようになっています。 	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		<ul style="list-style-type: none"> ・現在対象児童はいませんが、必要に応じて進めていきます。 	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットなどは、昼礼や様々な報告の場での情報共有、または口頭だけでなくその時々の方の方法で行う事を心掛けています。 	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:R 3年 3月 27日

事業所名 児童発達支援事業所ほのか

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	0	・活動に合わせて環境設定を行っています。	・指定基準に基づき活動スペースを十分に確保しているが、活動に応じた環境設の工夫をしています。
	2	職員の配置数は適切である	10	0		・基準に基づき職員の配置を行っています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	10	0		・バリアフリーになっています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	1	・面談等でも意見を伺うようにしています。	・保護者様のアンケート結果を分析し、保護者の意向を反映させながら業務改善へ繋げています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10		・ホームページに公開しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		10		・現在は、保護者様と事業所内での評価のみとなっていますので今後の検討課題としてます。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		・定期的に事業所研修を行っています。	・定期的な研修会・保護者様向けの研修会に参加し支援に反映できるようにしています。また、事業所研修も行っていきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10		・保護者様・利用者様の意向を確認し支援計画を作成しています。保護者様より検査結果をいただき発達状況を把握しています。	・定期的なアセスメント・モニタリング・ケース会議・面談を行い、ニーズ把握し支援計画を作成し、実施しています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		・活動プログラムでは利用者様一人ひとりに合わせ小集団・集団・SSTのプログラム内容を職員同士でミーティングで計画し、実行しています。支援の内容や活動方法では子どもの特性に合わせて共通の目標の確認を行い取り組んでいます。	スタッフミーティングで活動の話合いを行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10			・個別課題と集団の活動やまた、季節を意識した活動を取り入れることでプログラムが固定化されないように工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10			・個人の目標は職員で周知しており、個別・集団の中での課題に沿った支援計画を作成しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		・活動の前後に職員ミーティングを行い、利用者の様子やプログラムの流れを確認するとともに、細目に支援内容のみ直し検討を行っています。	・毎日、必ずスタッフミーティングを行い、課題の確認を行っています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10			・翌日のミーティングで振り返りを必ず行っています。また、業務日誌の確認も周知しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			全職員で周知をし、改善に繋げています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10		・定期的に共有しています。また見直しも行っていきます。	・定期的に面談を行っています。また、面談以外でも迅速に対応しています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	10		・ガイドラインを確認	・支援計画書に発達支援・家族支援・地域支援を入れ具体的な計画を立てています。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		・開催されてる会議には、児童発達支援管理責任者が出席しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10		・学校との情報共有では、送迎時に情報共有をしています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10			・職員の共通認識に努めています。また、緊急時の対応等に関しては保護者様と連絡連携体制を図り利用者様が安心して通所できるよう努めています。

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10			・必要に応じて移行支援等の会議に参加しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10		・個人情報の取り扱いに十分注意しながら情報提供を行っています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10		・子ども総合療育センターの支援を受けています。	・子ども総合療育センターの療育講習会に参加をし、療育内容など具体的な支援について職員間で情報の共有を行っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	2	・年に一回の交流を定期的に行っています。	・今年度は、感染症予防の為に実施は出来ませんでしたが、今後は状況に応じて内容も再検討しながら地域交流を行っていききたいと思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	10			・必要に応じて参加していきたいと思っています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		・利用時及び面談など定期的に行っています。	・日頃の療育内容を具体的に伝えるようにし、保護者様と一緒に共通認識が持てるようフィードバックの時間を設けていきます。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10			・契約時及び改正があった場合には随時、プリント配布と合わせて説明を行っています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		・定期的な面談以外でも随時対応しています。	・保護者様からの発信をしっかりと受け止めながら、少しでも解決できるよう迅速・丁寧に対応しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	2		・感染予防のため今年度は実施できませんでした。今後の状況に応じて、内容を見直し検討しながら対応していきたいと思っています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10			・苦情解決の体制を繰り返し知らせながら、相談しやすい事業所づくりに更に努めていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		・毎月おたよりを発行し情報提供を行っています。	
	35	個人情報に十分注意している	10		・個人情報に記載された書類は、十分に注意をしています。	・鍵付きのキャビネットに保管をしています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10			
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	2	・法人内の行事に地域住民の参加を行っています。	・今年度は感染防止のため実施出来ませんでした。今後の状況に応じて内容を検討しながら、積極的に行っていききたいと思います。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10			・対応方法等、保護者の皆様にもいつでも確認して頂けるよう環境を整備を行います。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10			・法人全体の訓練と事業所内の訓練を計画的に行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		・事業所内研修を行っています。	・定期的に研修会を開催し、情報の共有と共通認識を図っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10			・身体拘束を行った場合には記録に残すこと、また契約書に記載し保護者様には契約時に説明を行っています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9	1	・事前にリアセメントへの記入、その後も定期的に確認しています。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	2	・その都度、記載し職員で周知しています。	・ヒヤリハットの内容については、事業所内で情報を共有し、再発防止に努めています。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:R 3年 3月 27日

事業所名 ゆいまーる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	7			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	監査を受けており、業務改善につなげています。	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼でその日のリーダーが役割分担等の確認を行っています	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		翌日に前日の振り返りを行い情報共有を行っています	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1	医療的ケア実施依頼書を作成し医療的ケアを実施しております。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	1		例年は専門機関による事業所訪問支援にて助言・研修を受けていましたが、新型コロナウイルスの影響にて制限はあったものの、本年度も受けることができました。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3		コロナ禍のため交流は控えています。今後感染対策を行った上で可能な範囲で検討していきたいと思います
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1		定期的に地域の協議会等へ参加しています
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2		保護者様のご家庭などで困っている事に対して事業所での支援を通してうまくいったことはお伝えする様にしています。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3		コロナ禍のため茶話会は控えています。今後感染対策を行った上で可能な範囲で検討していきたいと思います
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	35	個人情報に十分注意している	7			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4		コロナ禍のために事業所内への外部からの来訪を控えています。文化祭では玄関ホールでの写真展を行いました
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			避難訓練を年2回行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			